Heartful Day

北条高校人権委員会
平成２６年２月５日
No.７８

オリンピックから人権を考える

波紋を残したある行動

1968年メキシコ・オリンピック。アメリカ国歌が流れ星条旗が掲揚される間、表彰台の上で黒い手袋をした拳を天に向かって突き上げていた2名の黒人選手がいました。それは、男子200mで金メダルと銅メダルに輝いたトミー・スミスとジョン・カルロスというアメリカ選手でした。これは、アメリカにはびこる黒人差別に抗議し、ブラックパワーを誇示するためにとった行動でした。彼らの行動は、人種差別に抗議するデモンストレーションとしては確かに有効であったかもしれませんが、2人にはね返ったその代償は、あまりに大きいものでした。表彰式の翌日、2人はアメリカオリンピック委員会より選手団から除名、そのうえ永久追放の処分を受けたのです。

このような問題は、メキシコ大会で始まったことでもなく、それ以前からありました。1936年のベルリン大会では、ヒトラーが、100m・200m・4×400mR・走幅跳の4種目に優勝したジェシー・オーエンスに対し、「黒人がきらいだから」という理由だけでメダルの授与を拒否したのは有名な話です。このようにどんなに大活躍をしても、単に肌の色が黒いというだけで認めてもらえなかった時代が続いたのです。

オリンピック憲章には「国もしくは個人に関する差別は、いかなる形であっても、オリンピック運動とは相容れない」と明記しています。オリンピックは、様々な人種差別を克服する中から選手層を拡大しつつ競技レベルを向上させてきたのです。 競技施設や用具、トレーニング技術、栄養状態などの発達もさることながら、差別をなくして選手の裾野を広げ、優れた選手を次々に参加させてきたことが競技レベルの発展に貢献しているのです。

子どもたちの未来への希望を語る

「この銀メダルが、グアテマラの子どもたちに勇気を与え、彼らが銃やナイフを置き、その代わりにトレーニングシューズを手に取ってくれればいい。そうなったら自分は世界一の幸せ者だ。」これは競歩二十キロメートル銀メダリスト、エリック・バロンド選手の言葉です。

グアテマラは南米のメキシコの南に位置する国で、1960年から1996年まで36年間続いた内戦の影響がまだ残り、政治的にも社会的にも不安定で決して治安が良いとはいえない状況にあります。日本に住む私たちは、何ら不自由なく毎日過ごすことができていますが、世界には普通に生活の送れない国が存在しています。彼の言葉をきっかけに多くの人々が、この問題に気づくことができたのなら、地球上の誰もが平等な人権を与えられる日が来る日が近いかもしれません。オリンピックは人権問題を解決するために貢献しているのです。

”パラリンピック”、”スペシャルオリンピックス”を知っていますか？

パラリンピックは、国際パラリンピック委員会が主催する障害者スポーツ最高峰の大会です。1948年に、イギリスのストーク-マンデビル病院の医師グットマンが、戦争で負傷した兵士たちのリハビリテーションとして始まりました。そして1960年には、グットマンを

会長とした国際ストーク・マンデビル大会委員会が組織され、この年のオリンピックが開催されたローマで、国際ストーク・マンデビル競技大会が開催されました。この大会は現在、第1回パラリンピックと呼ばれています。パラリンピックは、もう1つのオリンピックという意味を表すparallelとolympicを合わせた造語です。

スペシャルオリンピクスは、1968年、故ケネディ大統領の妹ユニス・シュライバーが、当時スポーツを楽しむ機会が少なかった知的障害のある人たちにスポーツを通じ社会参加を応援する「スペシャルオリンピックス」として設立しました。

スペシャルオリンピックスとは、知的発達障害のある人の自立や社会参加を目的として、日常的なスポーツプログラムや、成果の発表の場としての競技会を提供する国際的なスポーツ組織です。いつもどこかで活動しているということから、「Olympics」と複数形になっているのです。

次回の放送は、３月５日(水)の予定です。お楽しみに･･･

お願い

今日の放送を聞いて生徒の皆さんの感想や、この資料をご家庭に持ち帰ってご家族の方と話し合ったこと、ご感想などをお寄せください。　　　　提出は、ホームルーム担任まで

切り取り線

第９回ハートフルデー　　　　(　　)年次　生徒 or 保護者